

(4) 本年度の研究

①研究の内容

教科体育の教育的機能を再確認

「子どもから見た特性」をしっかりと捉えて、子どもの実態に合った学習過程を計画する。

今持っている力を十分に楽しむことで、自分の課題(競争する楽しさの追求や達成の楽しさの追求など)やチームの課題(相手チームと競争する楽しさの追求)が見えてくる。この課題のもたせ方の工夫が大切である。つまり、『子どもから見た特性』をしっかりと捉える必要がある。そうすることにより、子どもたちの実態に合った『学習のねらい』と『学習のみちすじ』を計画することができる。そして、課題を追求する活動の中で、今持っている力でどんなことができるのか、またはどうしたいか最もこだわっていることが、めあての内容になるだろう。こだわっている内容だから、子どもたちは、めあての解決に向けて、いろいろな解決方法を探し出す。子どもの自発的な活動を促進することになるであろう。

子どもの実態の観点を共通理解し、単元終了後、子どもたちが何を学び、どのように変容したかをさらに明確にしていく。

子どもたちの自発的な学習を大切にするために、実態の観点をしっかりと捉え、学習指導案にどのように表し、授業計画するかを研究していきたい。

子どもの実態の観点としては、下記のことを共通理解したい。

- 興味・関心…運動の楽しさ(競争、克服、達成、模倣・変身)を感じているか。
- 運動技能…今までの既習単元や休憩時での実態、学習する単元に関する基礎的な技能はどうか。
- めあての持ち方…「今の力を生かして特性を求める学習→創意・工夫し、力を高めて特性を求める学習」という学習の道すじを理解し、運動の特性を求める活動の中で、今自分のもっている力でどんなことができるのか、あるいはどうしたいか、最もこだわっている活動の内容を「めあて」として持てるか。
- 学び方…めあてを解決する方法を「行ったり来たり」しながら探し求め、しかも探し求めっぱなしにならないように、探し求める活動が確かなものになるような学習に取り組むことができるか。
- マナー面やルール面…寛容の心をどれほど持っているか。マナー(内面的規約)とルール(外面的規約)は相関関係にあり、学年が進むにつれ、問題をルール面で解決するよりマナー面で解決することが多くなると思うが、子どもたちの実態はどうか。
- 学級内の教育の現代的課題における原初的傾向や問題
…教育の現代的課題の分析表で当てはまる傾向や問題はどのようなものか。
- 子ども同士の関わり…集団的種目でのゲーム中やチームの時間での関わりの様子。個人的種目での準備・片付け、活動中の関わりなどの様子。トラブルが起きた時の解決の仕方など
- 体育科以外のグループ学習力…日常のグループ活動の様子

教育の現代的課題の原初的傾向を児童実態と照らし合わせ見つめ直す

◎コミュニケーション能力を育てる可能性を探る

以前より本校の教育の現代的課題の原初的傾向として、コミュニケーション不足が課題になっている。体育学習におけるコミュニケーション能力を下記のように系統立ててみた。

低学年…順番やきまりを守って仲良く運動したり、みんなでゲームを楽しくしたりすることができる。

また、勝敗を素直に認めることができるようにもする。

中学年…順番やきまりを守って仲良く運動したり、友達とルールを守り工夫し、協力して、ゲームを楽しくしたりすることができる。また、勝敗を素直に認めることができるようにもする。

高学年…互いに協力して運動をしたり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立て、ルールを工夫し、役割を分担してゲームを楽しくしたりすることができる。また、勝敗に対して正しい態度がとれるようにもする。

体育学習においては、必然的に友だちと関わるが多くなる。ゲーム中やチームでの練習のとき、作戦を立てたり、その反省をするとき、意見を出し合ったり、励まし合ったり、アドバイスをあげたりもらったりするうちにコミュニケーションをとる方も受け取る方も次第に上手になってきた。その結果、勝敗に関しても素直に認めることができるようになってきた。

また、具体的な話し合いの観点が示されたときは、低学年の子どもたちでも話の筋を大きく外れることなく活動できていた。さらに、高学年においては友だちの良さを見つけるように指導することで、自分ができるいろいろな方法でチームに貢献し勝利しようと共通理解がなされ、チーム内のコミュニケーション力やマナーが向上した。さらに、友だちとの関わりを通して多様な運動の楽しみ方やおこない方を共有する場や機会を保障していきたい。

さらに、学校生活全体を通して、子どもたちに言語に対する関心や理解を深め、言語環境を整え、子どもの言語活動が適正におこなわれるようにすることが求められるだろう。また、話し合いが、話すことと聞くことの双方向で行われることを子どもたちに認識させ、友好的な友だち関係をはぐくみ、相手の話を共感的に聞こうとする子どもにしなければならない。これからも、子どもたちの言語力をさらに育成・向上することを課題にし、コミュニケーション能力を高めていきたい。

◎体育学習で生きる力を育てる

本音がぶつかり合って、競争や勝敗に関するトラブルや、上手下手での人を傷つける言葉などが飛び交うということもある。実はこのトラブルがあるからこそ、人間性や社会性が育っていくと考えている。トラブルが起きたときに自分たちで悩み考え、力を合わせて解決していく経験を大事にしていきたい。このトラブルと丁寧につきあい、子どもとじっくり向き合うことが大切であると捉えている。また、運動における好ましい態度は、目標のように提示するのではなく、運動を通して子どもたちに発見的に学習させ、教師はその手立てをどう仕組んでいくかを考えていきたい。

体育学習の研究成果が他教科及び教育活動全般にどのように影響しているかについて意識的に見つめていく

- ◎ 体育学習で大切にしている子どもの自主性や学習の進め方を、他教科等でもさらに大切にしていき、体育学習の研究成果が他教科及び教育活動全般にどのように影響しているかについて意識的に見つめていくこととする。

- ◎ 研究の視点の図式にもあるように、教育の現代的課題にせまるためにも日常のグループ学習の積み重ねを大切にしていき、体育科の学習だけでなく、他の教科や学級活動・学校行事も含めてグループ学習を取り入れ、小学校6年間でルール・マナーをどのように学習させていくか。また、教科等学習で学習をすすめる力をいかに高めていくか。
- ◎ 教育の現代的課題とどう向き合っているのか。日常のグループ学習の積み重ねを大切にしていき、体育科の学習だけでなく、他の教科や学級活動・学校行事も含めてグループ学習を取り入れる。
- ◎ 体育科以外の教科特性または研究視点が、逆に体育学習とどう結びつき、どのような影響が期待できるのか。

以上、教育の現代的課題に視点をおきつつ、今福の子どもの現実を捉え、目の前の子どもをどう育てていくのかを全体で話し合い、教育活動全般で取り組んできた。その中で体育では何ができるのか、どのような可能性があるのかということを探っていこうとするものである。

② 研究の方法

- 2ブロック制(低学年ブロック、高学年ブロック)のもとで研究を深めていく。
- 各ブロックの取り組みについては、今までと同様に昨年度の課題について話し合い、それぞれの子どもの実態を十分に把握した上、現教の研究テーマを具現化していく。そのためにも低・高の具体的なテーマを設定し、以下の3点に視点を当てて研究を進めていく。
 - ・友達と関わりあい、ともに高めあう授業の工夫
 - ・運動が持っている楽しさに触れられるような目当ての持たせ方
 - ・ルールや場の工夫
- 研究授業の記録、協議会の記録、単元の考察など。ブロック毎にまとめて報告をしていく。

③ 研究組織

